

米国債格下げ後の市場の動揺は早期収束へ



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米国債格下げの影響は限定的

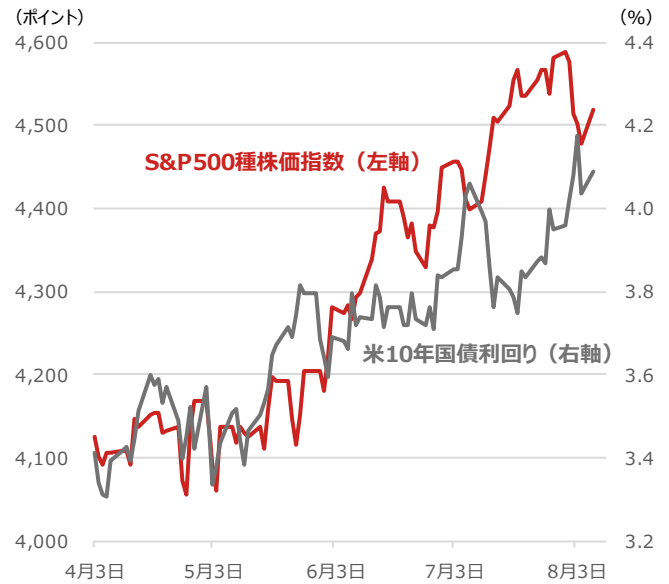
ニューヨーク時間の8月1日に、大手格付会社が米国債の格付を引き下げてもう間もなく1週間が経とうとしています。米国債格下げ後に、米国市場では米国株が下落し、米10年国債利回りが上昇するなど、投資家の間で動揺が広がる場面もありました（右上図）。ただ、市場の不安心理を表すVIX（ボラティリティ・インデックス）は、米国債の格下げで市場が大きく揺れた11年に48.00まで上昇し、その後も高止まりしましたが、7日のVIXは15.77と低水準にとどまっております。現時点では米国債の格下げが市場に与えた影響は限定的といえます。

ポイント② 市場の動揺は早期に収束する可能性

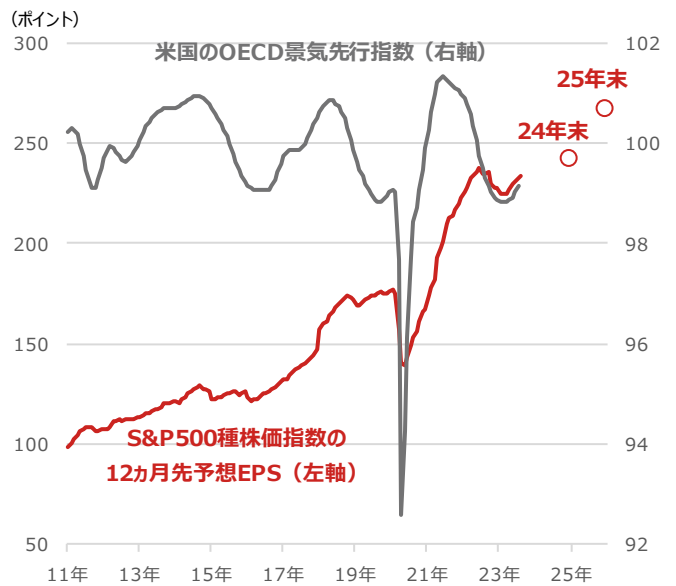
米国債の格下げによる市場の動揺は早期に収束する可能性が高いと考えられます。それは、前回格下げで市場が動揺した11年とは米国を取り巻く環境が異なるためです。11年は欧州債務危機への懸念が強まっていたこともあり、景気の先行きに対する警戒感から、米国のOECD景気先行指数は低下基調でした。また、S&P500種株価指数の12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）も回復の踊り場を迎えていました（右下図）。

一方、今回について景気と業績の状況をみると、米国のOECD景気先行指数は7月まで4ヵ月連続で上昇しており、米景気が回復局面に入りつつあることが確認できます。加えて、S&P500種株価指数の12ヵ月先予想EPSも回復基調にあり、24～25年末に向けては過去最高益の更新が見込まれるなど、11年の局面と比較して米国を取り巻くファンダメンタルズは良好といえます。FRB（米連邦準備制度理事会）の利上げ停止時期も近づくなか、米国市場は再びリスクオンに向かう可能性が高そうです。

S&P500種株価指数と米10年国債利回り



S&P500種株価指数の12ヵ月先予想EPSと米国のOECD（経済協力開発機構）景気先行指数



*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。